

---

---

# 教育総合センター

## だより

---

---

NO. 114

平成 21. 12. 1

### あれから30年経ちました — 授業の職人を目指して —

尼崎市立南武庫之荘中学校  
校長 倉橋 忠



「お世話になりました。会社を辞めさせてください。」と辞表を書いたのが昨日のように思い出される。28歳の秋だった。もう30年以上が経つ。

自動車工業界の末端で働く営業マンだった私に転機が訪れた。それは産業ロボットとの出会いであった。当時の私は、勤めていた会社が新規設立する産業ロボット販売部門の責任者を任されることになっていた。某大手メーカーの経営戦略の一環だった。社命を受けた私は、産業ロボットが稼働する工場を見学した。私は営業意欲を失った。すでに当時のロボットは、力持ちで、かつ繊細な仕事が出来るとてつもない優秀な「労働力」だった。20年のベテラン技術者の30人分の作業能力を保有する。1台が1200万円。労働者3人分の年間所得だ。「こんなモン売れるか。失業者を何人生み出すんや」と辞職を決意した。勤務する会社に与えるダメージも考えずに…。

「アホ。何回、言うたらわかるんや。聞くんやない。盗め。」と、「なんで？」と聞くたびに、何度も父親に叱られた幼い頃の私。根っからの職人氣質の父親は、職人の教育方法で私を育ててくれた。母方の祖父は、それ以上の職人肌だった。二人の職人から「仕込まれた」私は、「質問」できない人間に育っている。父は大阪城公園や中之島公園などに庭師として爪痕を残し、祖父は近畿一円の神社仏閣に左官作品を残して他界した。けれども、「おまえは後を継いだらアカン」と職人氣質だけを私に伝え、「一番弟子」の私に職業を継ぐことを許さなかった。

父が病に倒れ家業は廃業。18歳の時から履き慣れた地下足袋を脱いだのは27歳の時である。その後は流転。様々な仕事に就いた。たどり着いたのが「教職」だった。35歳になっていた。

「俺は、授業の職人になる」と決意するには、時間はかからなかった。初任者のときに出会った校内暴力の凄まじさがそうさせた。何人もの先輩教師が殴られた。多くの子どもたちはそれ以上に傷ついた。彼らは今年40歳になった。大乱闘を制した当時の私が感じたこと。「低学力が全てを生み出している」。「わかる授業」をする先生の授業は荒れなかった。授業研究は命がけの作業だ。己の人生の大半を賭けるだけの価値がある仕事だと思ったとき、生来の転職癖は止まった。

「授業は人類の文化を後世に伝える営み」である。その文化とは何か。個人が生きるために学ぶような「ちっぽけ」なものではないはずである。測りきれない質量をもったもの、それが文化の重みに思えてならない。

「職人」として見たとき、私がしてきたことは、父親や祖父の「仕事」の足元にも及ばない。職人の世界の教育方法は、学校が成立する前から、高度な技術文化・職人文化を伝えることに成功してきた。一方、今日の教育システムは、人類が生き延びる「すべ」を伝えきれるのか。未だ私の授業論は、文化を伝えきれる授業方法にたどり着けていない。私には何が出来るのか。あれから30年以上が経った。けれども、日暮れて道なお遠し。

## ☆☆☆☆☆ 人権教育研修を受講して ☆☆☆☆☆

### ◇ 現代の子どもに

「現代の子ども達には、コミュニケーションの場を教師が作り出してあげなくてはならない」今回、夏季休業中の研修での講師の先生のこの言葉が印象に残っている。

これまで担任してきたどの学級にも、常に気になる子どもがいた。人間関係づくりが苦手な子、何事にも消極的な子、すべてに覇気がない子等、枚挙に暇がない。

この原因は、「近年、子どもたちの自尊感情が低下してきたからだ」と研修で言われた通りだと思わざるをえない。

### ◇ ライフスキル研修に学んで

今回の研修で、ライフスキル教育(子どもたちの自尊感情を高め、よりよく生きるために必要な心理、社会的能力を養う手立て)を学んだ。

- ①自分のことを知る。
- ②どんな自分も受け入れる気持ちをもつ。
- ③他人のよさを認める姿勢を身につける。

その中で、一番に私自身、子どもたちに対する姿勢を変えていかなければならないと感じた。たとえば、いつも子どもたちを温かく包み、支えようとする姿勢である。そうすることで、子ども同士は、相手の立場を考え、他を思いやる心も育ち、ともに生きようとする学級集団が生まれてくるのではないかと考える。

### ◇ 学んだことを生かして

学んだことを生かすために、実際に総合的な学習の時間に授業を行ってみた。資料には、西宮ライフスキル研究会の実践書『ライフスキル(互いに高め合うセルフエスティーム)』を活用している。それぞれのプログラムに、子どもたちはとても意欲的に取り組んでいた。その結果、以下のような子どもの変容が見られるようになってきた。

- ①人前で思っていることが言えなかった子どもが、少しずつその思いを形に表すことができるようになってきている。
  - ②自分のことしか見えていなかった子どもが、周りの友達の様子に関心をもつようになってきている。
- これらは、プログラムに取り組むうちに、心の中の感情を知り、少しずつ自尊感情が高まっているからではないかと考えている。

実践してみて、子どもたち自らが成長していく過程が見て取れた。また、子どもたちの新たな側面を感じ取れるようになってきた。ライフスキル教育の大切さをより実感している。

### ◇ 今後もライフスキルプログラム

今後も、ライフスキルプログラムを活用しながら、自尊感情・他者理解等、子どもたちの「生きる力」を育てていきたい。

(尼崎市立武庫庄小学校 教諭 岨 慎司)

## ☆☆☆☆☆ 「一言の重み」 ☆☆☆☆☆

ある日突然、見知らぬ女性からの封書が届いた。開けてみると、2枚の便箋とチケットが一枚入っていた。差出人は、高学年で教えた子どもの母親、チケットは大学卒業記念コンサートのものだった。

「…小学校時代、私が息子のピアノをやめさせようと先生に話を持ちかけたとき、先生は、せっかくここまで頑張ってきたんですから、もう少し続けさせてあげてはどうですかと言われました。おかげ様で、音楽を続けることができ、成績優秀者だけで行われる卒業記念コンサートに参加できることとなりました。あのときの先生の言葉に本当に感謝しています。チケットを同封していますので、もし時間がありましたら、息子の姿を見てやってください…」

コンサート当日、若干道に迷いながら会場に到着し、しばらくして開演したが、なかなか彼は出てこない。ミスチル、コブクロ、クラブトン、ケニー G、トゥーツ・シールマンス…あまりジャンルに拘らず、ライブには足繁く通う私だが、クラシックには縁遠い私には、若干退屈な時間が続いた。

いよいよ彼の出番。司会の言葉で取りを務めることがわかった。「この人の声が聞きたかった」、「この人の歌はすごいよ」…小さな呟きが重なり、会場が微妙にざわついた。なんとなく会場の人数も増えているようにも感じた。

ステージ衣装の彼は、伴奏者とタイミングを合わせ、いよいよ演奏が始まった。

「すごい！」無意識に体が身震いした。

それまで何人かの声楽専攻者が演奏したが、全く声量が違う、響きが違う。昔の面影を残した決して大柄ではない彼が、ステージ上では物凄く大きく見えた。比較的小となしかった彼が、大ホールで堂々と歌い上げることなど、当時では想像できず、たくましく育った教え子の姿に、感動以外何物もなかった。

スタンディングオベーション、深々と礼をする彼に、これまでに比べ格段に大きな拍手が送られ、コンサートは締めくくられた。

ころあいを見て、関係者に案内されて楽屋をのぞくと、アスコットを取り、リラックスした彼がいた。私が来ていたことに驚き、笑顔で迎えた彼。「先生がピアノをやらせてくれたから、今の僕があります。ありがとうございます。」

楽屋を出たところで、駆け寄ってきた女性。「母です。先生の言葉には、今でも感謝しています。先生のおかげでこんなに立派になりました。」

小学校時代、本人と母親と3人で話をしたことは何となく覚えているが、「ピアノを続けさせてあげてください」と言ったことは思い出せない。

一言の重み…言われた者の将来を変えることもある。

一言の重み…言った者は忘れてしまっても、言われた者は深く心に刻んでいる。

一言の重み…無意識に人を傷つけたことはなかったのかな。

(人権教育担当係長 平家 祐孝)

## 教育情報コーナー 資料紹介

12月4日（金）から10日（木）までは人権週間です。今年の法務省の啓発活動重点目標は『みんなで築こう 人権の世紀～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心』です。21世紀は「人権の世紀」といわれています。しかし、世界も日本も、またおとなも子どもも、人権へのいただきは、ますます高く険しくなっているように思えてなりません。情報コーナーの蔵書の中から関連の本を紹介します。

---

### 『いじめの連鎖を断つ～あなたもできる「いじめ防止プログラム」』

砂川真澄編著 （富山房）

子どものいじめを防ぎたいと願うおとな向けに書かれています。深刻ないじめに至らないよう、まず初期のいじめを防ぐことが大切です。いじめ防止にむけたおとなの支援力強化をはかります。

### 『Q&A子どものいじめ対策マニュアル～解決への法律相談』

三坂彰彦他編著 （明石書店）

法律的な側面からいじめ問題を考えます。問題に詳しい弁護士が編集しています。いじめとどう向き合うべきなのかを考えるための情報や、裁判用語・法律用語や判例へのコメントなど幅広く知ることができます。

### 『「いじめ」の授業～道徳自作資料集』

大江浩光著 （明治図書）

「いじめ」を題材にした授業をしてみようとお考えの先生方に、参考になります。6本の題材すべてに、学習指導案と実践記録・ワークシートが付いています。

### 『なくそう！ スクール・セクハラ～教師のためのワークショップ』

朴木佳緒留監修 （かもがわ出版）

スクール・セクハラは、人権と教育の問題であることを理解し、その防止研修プログラムを学びます。ロールプレイによる仮想場面を設定し、本音で話し合います。

### 『実践に基づく毅然とした指導～荒れた学校を再生するマニュアル』

山本修司編著 （教育開発研究所）

生徒の問題行動に対して「ダメなことはどんな理由が合ってもダメ」とする指導しなければ子どもは健全な発達ができようはずがない。そのような姿勢を貫いた実践集。

### 『人と人を結び、思いやる心を育てる授業～確かな人間関係を築く実践プラン44』

安達 昇編著 （小学館）

豊かな人間関係を作ることが、人権教育の基本です。本書はロールプレイやブレイクアウトなどの参加・体験型の授業プランです。ワークシートと指導案で構成されていますので、すぐに始めることができます。

---

#### 開館時間ご案内

平日 午前9時 ～ 午後9時

《ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分とします》

なお、次の日は取り扱いいたしません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行 尼崎市立教育総合センター

尼崎市三反田町1丁目1番1号(Tel.06-6423-3400)

発行者 平垣 新一

題字 尼崎市教育委員 岡本 元興